五省

一、至誠に悖るなかりしか
一、言行に恥ずるなかりしか
一、気力に欠くるなかりしか
一、努力に憾みなかりしか
一、不精に亘るなかりしか

五省会ニュース

発行所
特定医療法人五省会西能病院
〒930 富山市五福1130
TEL (0764) 41−2481(代)
発行人　西能 正一郎

新時代の病院像

—大阪で第42回日本病院学会—

八人が参加、四演題を発表

西能理事長が「病院経営」の座長を

「新時代の病院像ー質の向上と機能改革ー」をテーマに、第四十二回日本病院学会は六月十八日から二十日までの三日間、ホテルニューオータニ大阪で開かれた。一般演題三百五題、特別講演、シンポジウムなどで、二十一世紀に向けてのふさわしい医療の発展、向上について研鑽を深めた。

西能病院から西能理事長（日本病院会常任理事）ら八人が参加、西能理事長が一般演題「病院経営」の座長をつとめた。

会場での記念撮影

演題では、薬剤部の上田謙一が「院外処方箋を発行して」、看護部の味噌町子が「高齢者の与薬工夫」、同中山栄子が「訪問看護連絡表の活用を試みて」同楠美知子が「入院時のオリエンテーションの再検討」の四演題を発表。次は二演題の要旨。

状況把握に役立つ

「訪問看護連絡表の活用を試みて」

訪問看護や入浴サービスを実施している十六人について、平成三年七、八月の二カ月間、訪問看護連絡表の使用を試みた。全身状態の経過を把握し、適切な援助活動に役立てるのが目的。

連絡表は、カレンダー形式で簡単に記入できて見やすいように配慮して作成した。項目は気嫌、食欲、体温、脈拍、排泄状況などで、一部絵で表わした。

結果は、便がいつ出たかわかる、平熱がわかったなど状況把握に役立ったが、毎日の記入は介護者の負担を大きくした。

そこで、平成三年三月からの連絡表は簡単な○印記入にした。

職員も患者も趣旨を理解

「院外処方箋を発行して」

平成三年五月一日から外来患者に100%院外処方箋を発行した。実施後、患者から、会計が二度になり不便になった、一部負担金が高くなったなどの苦情が寄せられ、「なぜ医薬分業にしたのか」の質問が相次いだ。

しかし、患者数の動向は、前年同期に比べて横ばいで、影響はないと考えられる。これは、全職員が、その趣旨をよく理解し、より一層の接遇向上を図るとともに、患者に理解を得るよう、トラブルの回避に努めた結果である。そして、薬価差に依存しない経営方針に大いにプラスに働くものと考える。

開苑一周年の梨雲苑

西能 正一郎

ご縁があって、特定医療法人西能病院が資金供給をして設立された特別養護老人ホーム梨雲苑も開苑一周年を迎えることが出来ました。昨年暮から取りかかっていた増築工事も完了して、二十人の短期収容も受け入れ出来るようになりました。

新しい入苑者が来られますと、ちょいちょいお部屋にお伺いするわけですが、最初のうちは、私にはぼけておられない方は極く稀で、殆どが痴呆症といっても言い過ぎでないという印象を受けました。私は専門家ではありませんが、近頃は病院でもそんな方々を時々お見受けしますので、苑の痴呆の程度は病院とは比較にならない高いレベルのもののように思えました。顔はマスクのように表情がなく、勿論、意志の表現、指南力、判断力など調べる方法さえ見付からない、生ける屍としか目に映らない状況でありました。

調査法によっても異なりますが、高齢者の中で痴呆の占める率は、最近の厚生省の発表で精々十%強、尺度を広げても、たかだか三十%程度と考えられるのですが、梨雲苑だけどうしてさるようになるのです。この変化を見て、痴呆と思い込んでいたのだが、頭が錆びついていたに過ぎなかったのだと理解しました。

顔が動き、愛想笑いを…

こんなに多いのか、お役所は痴呆ばかり選んで送り込んで来るのではないかと勘繰りたくなるほどでした。

ところがです。この痴呆に見えたご老人達が、寮母に車椅子や手を取られてあちこち歩いたり、仲間の皆さんとおつきあいなさるようになりますと、マスクの様な顔が動くようになり、一カ月もすると、私に声を掛けたり、愛想笑いをなさるようになるのです。

考えてみれば、朝御飯が済んだら、父ちゃんは弁当を持って会社へ行きます。日本人、特に富山県人は良く働きますから、母ちゃんも御飯の後始末が済んだら、じいちゃんにおむつをさせ、枕元におむすびを置いて、外から鍵をかけて働きに行ってしまいます。

後は日のあたらない中の間で、皆が帰って来る夕方まで独りで、ただねているのです。これでは頭が錆びつかない方がおかしいと思われます。

急に迫って来る高齢社会への対策が大幅に遅れている日本では、苦しまぎれとしか思いようのない在宅支援の策が今花盛りであります。在宅介護、在宅医療と、いかに太鼓を叩いてみても、このように受け皿のない現実があることを認識すべきであります。

あすなろ

「サザエさん一家」の生みの親、長谷川町子さんが亡くなった。今あらためてその漫画をひもといてみるとそこに描かれた戦後二十五年の庶民生活は、買い出しに始まる民衆史の記録といっていい▼登場した世相や風俗、品物や言葉の中には、もう消えて現代の若者には全くわからないものも多い。主婦には必需品だったタライに洗濯板、台所のカマド、なべ、かま、七輪、うちわ、豆炭、練炭、タドン…すべて消えた。手ぬぐい、衣紋がけ、ズックぐつ、げた、どてら…数え上げればキリがない▼そもそも住宅から茶の間がなくなっている。だからその中のチャブ台、茶だんす、柱時計、日めくり、ハエ帳、ハエ取り紙、孫の手、さらに火鉢に炭、十能、五徳、消しつぼ、灰ならし…もなくなった。夏になれば、かや、夕涼み、縁台、すだれ…すべて懐しい風物詩だ▼しかし、よく考えてみると千年前の平安時代から風俗はいろいろ変化を重ねてきたが、衣食住の根本は昭和三十年代まで実はほとんど変わっていない。だから作家の橋本治さんはこういう。「三十年代までを生きてきた人たちに〝枕草子〟の冬の情景は推測がつく。しかし今は、火鉢も炭も、冬の部屋の寒さも消え、がらりと生活が変わった。これで古典がわかるはずがない」▼サザエさんの漫画が貴重な日本生活史といわれるゆえんだ。

暑中お見舞い申し上げます

平成四年盛夏
特定医療法人五省会

理事長 西能正一郎
常務理事 中永 久光
理事 西能 竑
理事 住 博司
理事 中尾 哲雄
理事 米田 寿吉
監事 石川 実
監事 筧田 英二
評議員 稲垣 忠一
評議員 大上紀美雄
評議員 尾山征一郎
評議員 神沢 幹夫
評議員 河上弥一郎
評議員 西能 綾子
評議員 西能 孜
評議員 坂本 重一
評議員 笹山真治郎
評議員 土田 亮一
評議員 古沢 富美
西能病院職員一同

病床日記

大西トク(74)
小杉町鷲塚

人生で一番の嬉しさ

励ましで取り戻した歩行

お正月に入院し、アジサイの麗しい季節に退院の日を迎えた。これもひとえに、院長先生はじめ皆さまのおかげ。

思い返せば、腰が痛くてトイレにも行けない。〈これでは寝たきりの生活になるのでは〉と思い、一晩中、泣いていたとき、「手術をすれば痛みもとれ、歩けるようになります」の院長先生の優しい励ましの言葉を信じ、「頑張って下さいネ」の看護婦さんの真心の看護に支えられてきた。

そして、手術から三週間後に歩けるようになった時の喜びは七十余年の人生の中で一番うれしかった。腰を曲げて感謝している。

自宅の庭を散歩する大西さん

受付日記

河辺信子
医事課

いつも笑顔で…

お年寄りには分りやすく

勧めてから五年がすぎた。医事業務や受付付けに精を出している。受け付けは、職員が最初に患者さんとふれあう病院の顔、いつも笑顔を心がけている。

とくに、お年寄りが多いので、わかりやすく説明して、不安をとり除くようにつとめている。患者さんから「おかげさまで、よくなりました」と頭を下げられたときは嬉しく、「お大事に…」と心をこめてこたえる。

病院の機能向上にともない、丁寧、スピード、気配りなどが、さらに要求されてきた。初心を忘れず、〝信頼と奉仕〟を大切にして、がんばっていきたいと思う。

笑顔で患者さんに応対する河辺さん（左）

老人福祉の手引 ⑧

介護者の負担を軽減

要件に社会的と個人的の理由が

〔ショートステイ 在宅老人等短期保護事業〕

在宅の寝たきり等のお年寄りの介護者が病気その他の事情で、一時的に介護できないとき、介護者に代わり、特別養護老人ホーム又は養護老人ホームが一定の負担で、一定期間預かり、家族の負担の軽減を図ります。

期間は、原則として七日以内で、特別の事由がある場合は延長可能です。

預かりの要件として二つあります。①は社会的理由として、疾病、出産、冠婚葬祭、事故災害、出張転勤など。②は私的理由として、介護疲れなどの個人的なものです。

費用は、一日の飲食相当額です。持養で、生活保護世帯が①は無料②は二千二十円、一般世帯が①②とも二千二十円。養護で、生活保護世帯が①は無料②は一千五百七十円、一般世帯が①②とも一千五百七十円です。

申し込みの窓口は、各市役所、町村役場の老人福祉担当課です。各市町村が指定する施設に入所するので、問い合わせると良いでしょう。

また、老人保健施設で実施しているところもあります。申し込みの窓口は施設となっています。

（医療ソーシャルワーカー　中井香織）

信頼と奉仕

広報委員会

医療サービスや理念をさらに地域に浸透をはかる

広報委員会は、理事長が広報に関する諸問題を諮問する役割を有している。メンバーは中永五省会常務理事を委員長に、五人の委員で構成、毎月第二水曜日に委員会（写真）を開いている。

各企業は、これまで広報という業務の必要性を認めながら、なかなか組織的・体系的にアプローチすることが手薄であったところが、社会環境が大きく変化し、かつ「企業は、それぞれの社会的存在価値を主張し合うべきだ」とする傾向になってきた。

このような時代の要請に応えて、当院がおこなっている医療サービスや理念を地域の皆様に知っていただき、信頼をつくり上げていく必要があった。

地域に開かれた病院を目指し、地域の皆様とのコミュニケーションを深めていきたい。

（渡辺裕之委員）

地域と共に歩む企業を目指す㊤

株式会社インテック
代表取締役専務
中尾　哲雄氏

いまを生きる

西能正一郎対談シリーズ

好評の「わたしはこう思う」を衣替えし新しく題して「いまを生きる」。今まで同様、いろんな分野で二十一世紀をにらんで生きる人たちの信念や夢がとらえられたら幸いです。

共に支えあう精神で

「医療も地域に根ざすことが大切です」と西能理事長

西能　いまは経営に携わりたいと思っていたので、企業経営を勉強する良い機会でした。

中小企業を見ながら思ったのは、企業を育むのは地域だということです。企業も地域もとです。企業も地域もいっしょに栄えなくてはだめだと思い、地域開発の仕事に関心を持つようになりました。企画課長を最後に辞めたのですが、この間、富山　商工会議所に勤めることにしたんです。三郷の工業団地づくり、コンピュータ学校の設置などが思い出深いですね。

西能　コンピュータのほうも商会所時代から関わっておられたわけですね。

中尾　もう一つ商会所にいてやったことがあるんです。それは、録の経営指導員になりました。いつかは経営

西能　やはり、企業は地域と共に発展しなくてはいけないという考えからです。地域の環境、開発がしっかりなされていて、良い街づくりをしないと従業員が住みつきません。企業が自分の殻に閉じこもっていたり、自分だけがもうけていくという発想ではだめです。

西能　私達の業界でも近頃は、地域にある医療でないとだめだと言われていますね。

御輿をかつぐことも大切

中尾　お祭りがあっても、従業員は会社の行事に参加して、御輿をかつがない。かつぐのは学生アルバイト、という状況が富山市の場合、いっぱいあったでしょ。企業も従業員も地域の住民だから、町の行事には出ていくべきだ、というのが、私の若い頃からの考えです。共に支えあうということで、地域開発にも非常に関心を持っていたわけです。

西能　おいくつぐらいからですか。

中尾　二十代後半ぐらいからです。

西能　やはり目端が違ってたんですなあ。

中尾　いやいや、これは地域の中小企業経営者にとってはごく普通の考え方だと思います。最近とくに企業と社会の関わりが言われるようになりましたが。

西能　三十年近く前からやっておられたというのがすごい。

中尾　まあ、私自身の断れない性格というものもありますが、いろいろなことを引き受けてきましたね。田上先生や西能先生から依頼のあった育学校の教育振興会の会長も、ハイハイと引き受けたのも性格ですね。おかげで金集めなど大変で苦労しています。（笑）

西能　私も地域に根ざした医療でなければと思ったのは、開業して二、三年目ですからやはり昭和四十年頃ですね。この病院がここにあってよかったと思われるようにとやってきました。

西能　最初は日興証券に入られたんですね。

中尾　はい。ところが昭和四十年に証券不況があり、不二越の井村社長の助言もあり、富山　商工会議所に勤めることにしたんです。三郷の工業団地づくり、コンピュータ学校の設置などが思い出深いですね。

西能　コンピュータのほうも商会所時代から関わっておられたわけですね。

中尾　もう一つ商会所にいてやったことがあるんです。それは、

商業に従事する人に生きがいを持ってもらおうと、全国で初めて商業士という資格をつくったことです。全国的なものにしようと運動し、今は販売士という全国制度になっています。

西能　いったいそうした発想はどこから出てくるのですか。

中尾　やはり、企業

旧制富山高校同窓トリオの協力で

富大人文学部で勉強

日本の古い文化、大好きのドイツ幼稚園長

日本の古い文化に興味を持つドイツの幼稚園長（男性）が来富、富大で勉強に励んでいる。これは旧制富山高校の同窓生トリオの協力で実現したもの。その中の一人である西能理事長は「七年前に病院として整形外科研修の中国人医師を引き受けたことがあるが、国際交流に役立てば幸いだ」と語っている。

来富したのはスイス国境近くの古い町、フライブルクで身心障害児の幼稚園々長をしているアンドレアス　ウアンドさん（三四）。

知人である日鉄プラント設計会社、常任監査役の田口旭男さん（北九州市）に、かねてから手紙で「来日して日本文化を研究したい」旨を伝えていた。田口さんは、仕事の関係でドイツを訪れており、ウアンドさんと知りあったもの。

そこで田口さんは旧制富山高校の同窓生である平田富大人文学部部長と西能理事長に相談を持ちかけ、わざわざ富山にやってきて打ち合わせもした。

田口さんと西能理事長は高校の寮で同室だった仲。相談がまとまり、富大で勉強し、理事長が住いと食事を世話することになった。

リレーの赤組でがんばるウアンドさん

ウアンドさんは六月三日に富山着。富大人文学部のドイツ語学科の研究生として吉田教授の教えを受けており、また同大日本語教室の留学生として学んでいる。

十一月末に帰国、幼稚園長に復帰する。

〝合掌造り、すばらしかった〟

仏像、城、能楽に興味

ウアンドさんは、たどたどしい日本語で次のように話った。

「日本は古い文化をよく守っています。仏像、城、能楽に興味あります。平安時代の文化や万葉集、大伴家持も、調べてみたい。

呉羽山を散歩、民俗民芸村、五百羅漢に行きました。富山城、みてきました。病院の五十嵐さんと五箇山へ行き、にっこり笑いました。

ウアンドさんは、月ばかり遅かったので身の回りのことや買い物などに、よく面倒をみてもらいました」

よねさんも「わたしこそ、手のとどかないところに、はり薬をはってもらうなどして世話になりました」

二人は顔を見合わせて、にっこり笑いました。

ふあれい ⑧

ベッドで、むつまじく話し合う南さん㊧、高倉さん

ぴったり〝きんさん・ぎんさん〟

同じ境遇で意気投合

西能病院の205号室（二階、六人部屋）のベッドに腰をかけて、おしゃべりに夢中の二人は、南よねさん（六八）＝八尾町上井田＝と、高倉とみゑさん（七〇）＝利賀村坂上＝で、入院した時から仲良くなり、いつも一緒です。

よねさんはリュウマチで四月十六日に入院、右膝の人工関節置換術を、とみゑさんは両膝変形性関節症で一日遅れの十七日に入院、左膝の人工関節置換術を受け、ベッドが向かいあっています。

二人が、初めて顔を合わせたときは、何ともなかったのですが、同じ手術を受けた境遇などから話がはずみました。どちらも、さっぱりしていて、あっという間に意気投合しました。

それからというものは、どちらかのベッドでおしゃべりです。デイルームでの食事、入浴、杖での散歩、そしてトイレまでも一緒です。

「別々のところで買ってきたユカタのがらが同じだったんで、そこまで気が合っているのかと、びっくり…」

この、いつもぴったりの二人の姿に、看護婦さんたちは、「西能病院の若いきんさん（とみゑさん）ぎんさん（よねさん）ですね」とニコニコ顔です。

お姉さん格のとみゑさんは「わたしの方が、よねさんより手術が半つ持たれつの病床生活でした。おかげで、退屈しませんでした」

とみえさん「お元気でね、また会いましょう」

よねさん「お世話になり、ありがとう」

そして、それぞれのもう片方の膝の人工関節置換術を受けるときは一緒にしましょうと固い約束をしました。

つぎの手術もいっしょに

× ×

この取材のあと、二人は同じ日に退院しました。口をそろえて、「励ましあったり、慰めあったりして、持ちつ持たれつの病床生活でした。おかげで、退屈しませんでした」

とみえさん「お元気でね、また会いましょう」

よねさん「お世話になり、ありがとう」

そして、それぞれのもう片方の膝の人工関節置換術を受けるときは一緒にしましょうと固い約束をしました。

企業も地域の住民

「企業というものは住民といっしょにあらねば…」と中尾氏

それぞれの力を出しあうこと

西能　いやあ、実は一年半ほど前に事故に遭いましてね。半年ほど経った頃、ふと手帳をめくったんです。事故当時のスケジュールは、真っ黒になるほどつまっていましてね。それが、何の予告もなしにキャンセルせざるを得なかった。病院の理事長以外に二十二の役職があったのですが、それらすべてが、私なしに動いていたわけです。そうすると、私もたいしたもんじゃないなと思いました。（笑）

中尾　先生、それは違いますよ。その人でないとだめという人間はなかなかいません。その人がいないと止まってしまうものは私物であって、組織ではありません。余人をもって代えがたいと思うのは不遜ですよ。

西能　おっしゃるとおりですな。

中尾　そういうことを考えても、みんながみんな、もうちょっと出しゃばろうじゃないかと言ってるんです。主張していくんじゃなくて、自分を生かしていく気持ちが地域の活性化につながります。

西能　県民性の謙譲部分は、もう少し少なめにということですな。

生き生きとした高齢者に

中尾　富山の高齢化も非常に心配されていますね。でも私は、お年寄りにもっと出しゃばってほしいと思うんです。お年寄りが活躍する場をつくって、七十五歳ぐらいまでは生き生きと出しゃばってもらう。そして健康でいてもらい、富山だけは高齢者を七十五歳以上にするんです。そうすれば、富山は日本一高齢化の進んでいない県になります。（笑）

西能　この間、上市町の高齢者団体へ呼ばれて話をしてきたんですが、上市は高齢者率が高いんです。ところが、八十近い世話役の人が動いている姿を見ていると、六十代みたいなのです。高齢者が多いと、年寄りのような顔をしておられなくなるんですね。

今言われるようにアクティビティの高い高齢者がいっぱいいればいいんですよ。

中尾　そうすれば、高齢化して地域が沈滞するといった心配はなくなるわけです。

私は社員に、町内会のお世話をしなさいと言ってるんです。今は二日働いて一日休みの割合ですから、町内で十分に活動できるのです。企業人が地域人にもなることで、人間が二重になる。これが活性化です。出生率が低いとか人口が少ないとかで嘆かず、そこにいる人間がマルチに活躍すれば、倍の人口を生み出す活力が得られるわけです。

それに、若い時から地域に関わっていけば、定年後の生きがい、目標もおのずと出てきます。

西能　そうですね。人間は、生きがいや目標がないと、なかなか自分自身を活性化できません。私は講演に行くといつも言うんですが、朝起きてから何をしようかと思うのではなく、前の晩から明日は何をしようかと考えておくような生き方をしなさいと申しあげているんです。

（この項つづく）

いまを生きる

西能正一郎対談シリーズ

思い出アルバム ③

特定医療法人　五省会評議員

古沢富美

忘れられない満州の月

厳寒と〝しらみ〟の転戦行

昭和二十年十月七日午後二時、奉天陸軍病院五竜背分院に入院中の弱冠二十三歳の私（救護看護婦長）が、院長の相談を受けた。その内容は八路軍（現在の中共軍）から同日午後七時まで軍医一名、看護婦五名を派遣するようにとの命令があり、病院の接収を免れるために引き受けてほしいというのであった。

同年八月九日、ソ連が日本に宣戦布告し、ソ連軍が満州（現在の中国東北部）に進撃してきたため、奉天（現在の瀋陽市）市街戦が予想された。

そこで、同十四日、本院から急拠、千三百人が五竜背分院に転送された。常時二百人収容の分院は、学校や農業試験場などを接収し衛生兵百二十人が看護に当たっていた。

看護婦といえば、入院中の患者のみであった。したがって、両肺浸潤兼結核性腹膜炎で入院中の私が相談を受ける結果となった。

引き受けた私は、同じく入院中の看護婦患者の中から四人に事情を話して同行をお願いした。（同行したうち二人は、その後戦病死、一人は現在熊本市に、一人は高岡市に在住）

当時、八路軍についての貧弱な知識では、共産匪賊程度の認識しかなく、正に決死行であった。その後、軍律の厳しいことがわかった。

一年十カ月のあと、帰国を許された。その間、東満から北満へと、厳寒そして〝しらみ〟に悩まされる転戦行であった。

あれから五十年を経た今日でも、死を覚悟した時に仰いだ月の美しさが忘れられない思い出である。それと共に看護は、国境や人種を超えた行為であることを、身をもって知り得たのである。

（写真は、二十二歳のころの従軍姿）

病院だより

六月

九日＝五階小会議室で誕生会、該当者九人。

二十五日＝山本看護部長が富山市体育館で「キラッと輝いていたい」（富山レモンの会主催）と題して講演。

赤白に分れて　職員運動会

二十八日＝職員の第十五回運動会を富山市西部農村環境改善センターで開催、赤白に分れて、スプーンレース、二人三脚、綱引きなどを競い合った。このあと、バーベキューを楽しんだ。

七月

十日＝中永常務理事が東京で開かれた日本病院会の定例人事労務総務合同研修会に出席、議題は「病院週休二日制の実践上の問題点を探る」

十四日＝五階小会議室で誕生会、該当者十七人。

十六日＝西能理事長が井波町南山見公民館で「腰痛とのおつきあい」を講演。

理事長が教養講座に

十八日＝西能理事長が県民カレッジ砺波地区教養講座（福岡町農村環境改善センター）で「腰痛とのおつきあい」を講演。

二十一日＝西能理事長が福野町南部公民館で「腰痛とのおつきあい」を講演。主催は福野町南部婦人会。

入院患者さんが不在者投票

二十一日＝入院患者百六人が五階ホールで参院選の不在者投票。

二十三日＝西能院長が五福公民館で「骨粗鬆症の予防」を講演。主催は富山市民健康センター。

二十八日＝山本看護部長が呉羽自然少年の家で「いつでも役立つ応急手当」（県教委主催）を講演。

健康診査を受けよう

西能病院では、富山市の四十歳以上を対象にした健康診査と胃がん、肺がん、大腸がん検査を実施している。

期間は五月一日から来年二月二十八日（午前九時～正午）まで。

検査項目は、血圧測定、尿検査、血液検査などで、受診の際には受診券と健康手帳を持参のこと。

七月初めに健康診査と肺などの検診をうけた富山市下野新、多々タマキさん（八三）は「毎年うけています。どこも異状はなく、ひと安心です。何といっても健康が第一です」とホッとした表情だった。（写真は問診をうける多々さん）

栄養メモ

夏バテを乗り切る

うなぎ、焼き肉、ニラで

暑い季節の食事は、さっぱりしたもの、ひんやりしたものがおいしく、つい、そうめんや、ざるそばだけになりがちになります。それでは夏を乗り切ることはできません。

そこで、夏バテによく食べられるのが、うなぎや、焼き肉（豚肉がよい）で、これらはたんぱく質や、ビタミンA、同Bが多く含まれています。

また、夏野菜のニラには、ビタミンAが豊富で、百g食べると、一日に必要なビタミンAがとれます。香味野菜として加えると、彩りもよく、香りや味に深みがでます。

大いに食べて、この夏を乗り切り、秋に夏バテがこないようにー。

診療体制のご案内

休日診療

（日曜日・祝日）

午前8時30分～午後5時

- 整形外科
- 内科
- リハビリテーション科

平日診療

（月曜日～土曜日）

整形外科
午前 8：30～12：00
午後 4：00～7：00

スポーツ外来
火・土曜日
午後 4：00～7：00

内科
午前 9：00～12：00
午後 3：00～5：00
（火・金曜日は7：00）

神経内科外来
木曜日
午後 2：00～5：00

在宅看護・診療
木・金曜日
午後 1：30～4：00

リハビリテーション科
午前 8：30～12：00
午後 1：30～7：00

泌尿器科外来
土曜日
午後 1：30～5：00

栄養指導（糖尿病ウエイト・コントロール）
月曜日～土曜日
午前 10：00～11：00

救急出動OK

もし、救急車が必要でしたら、連絡して下さい。お迎えに上がります。常時2台待機しています。

通院バスのご案内

月曜～土曜　午前運行
（日曜、祝日は休み）
○印は常時停留所、その他、臨時停車します。

①富山駅・西町コース

丸の内→西能病院→富山大橋→丸の内→新富町→富山駅→桜橋通り→西町→旅籠町→丸の内

②婦中・長沢・金屋方面

金屋→西能病院→神明→羽根→鵜坂農協→速星駅→吉里郵便局→平岡→友坂口→金屋

③呉羽・中老田・北代・田刈屋方面

畑中→西能病院→吉作→花ノ木→中老田→女子短大→呉羽駅→北代→石坂→畑中